

川辺物語 1051-1062, After1485

記 2026.01.10

西暦年
1010年?

前九年の役
1051年

1057年

前九年の役・終
1062年以降

1075年

後三年の役
1083年

後三年の役・終
1087年

・
・

前九年の役終
1075年から
410年後

1485年

初代 川辺 義孝

二代 川辺 義直

三代 川辺 義治

四代 川辺 孝幸

五代 川辺 幸信

前九年の役での
安倍氏の事

安倍頼時（父）
1057年、安倍富忠軍
に矢を射られ死亡

・
・

安倍貞任（次男）
＜厨川柵主＞
1062年に厨川で死亡

・
・

安倍宗任（三男）
＜鳥海柵主＞
1062年に降伏し流配
され福岡県へ

義孝は飽田城（あきたじょう）近郊の岩見沢に陣を構え飽田城を救済、
岩見沢付近を鎮圧（制圧）し川辺郡（旧河辺町、現秋田市）とした
秋田岩見沢湊安東領

妻が藤原経清の姉妹
藤原経清（つねきよ）は藤原清衡（きよひら）の父

藤原の血を引く者（二子 川辺宗家）出生は青森県五所川原市らしい

後三年の役が終わった頃（1087年）、
平泉の藤原清衡から家臣になるよう要請されたが、断っている
清衡が叔父にあたるため、血筋のもののからの家臣要請は避けた

孝幸は前九年の役で武勲（現代表現でMVP）を挙げる
（孝幸は安倍頼時（頼時の初名は頼良）の重臣の一人だった）
頼時の息子、安倍貞任より紋（丸に菱木瓜）の入った兜・胴を賜る
（頼時より貞任が預かっていたものを賜る）

安倍頼時は同族の安倍富忠軍より襲撃を受け、
安倍頼時に矢が当たり、翌日死亡した

孝幸は号泣し、独り毘沙門天神楽で用いる神面を付け安倍富忠陣へ侵入し、
家臣360人、富忠を斬り、仇討ちし、富忠の首を宗任陣（鳥海柵）
に持ち帰ったこの時、安倍宗任等は川辺氏の忠節に賞賛した

安倍頼時の遺体は和賀の極楽寺へ仮埋葬された
以来、川辺孝幸改め、日高見太夫太郎孝幸と号した

孝幸は前九年の役が終わってから和賀の金山奉行を任された
（名前を日高見太夫に変えていた為、政府側が分からなかった）

安倍頼時の遺骨を石塔山荒覇吐神社（大山祇神社）へ移した
1975年7月26日（安倍氏聖地）（現五所川原市）

孝幸は1075年以降3年毎に十三湊を訪ねた（青森県十三湖付近 十三湊柵）

孝幸の遺骨は、和賀と五所川原に分骨された可能性が高い
川辺一族は、五所川原→和賀（江刺柵・鳥海柵）と移住した可能性が高い

川辺一族の多くは、秋田岩見沢湊安東領に移住したが、宗家は和賀に留まる
（移住の理由は、南部武田陸奥守に和賀の知行を取潰された為）

前九年の役とは、1051年に起きた、源氏側（政府・源頼義軍、出羽国・清原氏軍）と
安倍氏側（及川氏、岩崎氏、国見氏、安東氏、安倍氏、川辺氏等）との12年戦争。
安倍氏は1062年に滅ぼされる。川辺氏は安倍氏に仕えていた重臣の一人だった。
川辺氏は安倍氏だけに忠誠を誓っていたため、安倍氏滅亡後は誰の家臣にも付かなかった。
（故に和賀氏の家臣に名を連ねていない）



安倍氏は1062年に源氏に滅ぼされるが、安倍宗任は愛媛へ流配、
その後九州へ送られる
（九州で、梅の花の名を和歌で返した
事は有名、宗任の教養の高さに驚く）
宗任子孫は山口まで行き着いており、
子孫の一人は故安倍晋三氏であるが、
令和の現在も子孫は石塔山大山祇神社
へ参拝されている
（神社に掲げられている菊の御紋の由
来は不明）

